

「小川小学校創立150周年その3」

1951（昭和26）年、第1回和歌山県山村教育研究集会が龍神村で開催されました。第4回の研究集会は、1958（昭和28）年12月2日から4日にかけて小川小学校と小川中学校で開催されました。右の写真は小学4年生国語の研究実地授業の様子です。緊張した児童と真剣に見つめる先生たちの姿が印象的です。



この研究集会が開催された昭和28年は、7.18水害に見舞われた年で、へき地の学校も大きな被害を受けました。『和歌山地方気象台100年史』によると、小川村でも家屋半壊2、床上浸水40、被害者数134の被害がありました。

その傷跡も癒えない12月に県内各地から集まった参加者は、水害が教育にどのような影響を与えたか、復興教育をすすめるためどうすればよいか熱心に討議しています。

かつらぎ町花園村からは、「小学校低学年の児童は、山崩れや増水の避難体験から恐怖心を持つようになった。肉親・友人を失ったことや友達との別れ、学用品や生活必需品が流されたことから悲哀と寂寥感を持っている。高学年の児童は、お堂での共同生活の辛さや

今後の生活の不安を訴えている。よその土地に移りたいとの思いを持つ反面、災害原因の探求・復興の責任・方法に対する素朴であっても考察しようとする意欲も見え、生きていてよかった」と思うようになり、復興支援に対して感謝する気持ちも出てきていることが報告されました。（『和歌山県教育史』より）

左の写真は水害で壊れ、復旧した小川橋を渡って会場へ向かう参加者です。大木には、青年団員の奉仕によってアーチがつけられました。山村教育：歓迎：研究集会と大きく書かれています。参加者は小川村内で12か所に別れ、民泊しながら3日間の日程を終えました。

小川村公民館ではレクレーションとして、小川踊りを披露し、もてなしました。小川村を挙げての一大イベントでした。（令和5年5月12日）

